

おかやまけんしゃかいふくし

岡山県社会福祉

2024

秋

No.658



令和6年度第1回岡山県版福祉教育ガイドブック作成
検討会出席メンバー（該当記事P.2～3）

特集 special feature

教育委員会・学校と社協の連携・協働による福祉教育
～岡山県版福祉教育ガイドブック作成検討会の取組～

CONTENTS

県内地域福祉活動の取組レポート	4
県社協ニュース	6
赤い羽根共同募金	11
「ふくし」の仕事人たち	12



社会福祉法人
岡山県社会福祉協議会

URL: <https://www.fukushiokayama.or.jp>
Facebook @fukushiokayama
Instagram @okayamakenshakyo



教育委員会・学校と社協の 連携・協働による福祉教育 岡山県版福祉教育ガイドブック 作成検討会の取組



突然ですが、「福祉教育」という言葉をご存知でしょうか？
社会福祉協議会は、「福祉教育」を50年以上にわたり、全国的に推進しています。本会では、地域のつながりが希薄化する今、改めて、多様な福祉教育プログラムの推進に注力しています。

今回は、今年度立ち上げた「岡山県版福祉教育ガイドブック作成検討会」での取組を通して、中井俊雄委員長（ノートルダム清心女子大学准教授）、森年雅子副委員長（真庭市教育委員会 生涯学習課 郷育魅力化コーディネーター）とともに、教育委員会や学校と社協との連携・協働について考えます。



中井俊雄委員長
(ノートルダム清心女子大学 准教授)

みなさんは、「こどもたちにとってのふだんのくらしのしあわせ」とは、どのようなことだと思いますか？

今日における福祉教育の重要性

福祉教育とは
福祉教育とは「ふだんのくらしのしあわせ」について学ぶことです。すなわち、人がどう生き、どう老いていくか、自分や地域の人や、社会の幸せとは何かを考えることで、憲法13条の幸福追求権や、第25条の生存権にも関わってくる非常に大切な取組です。

福祉とは

●福祉（ふくし）

- －ふだんのくらしの（憲法25条 生存権）
しあわせ（憲法13条 幸福追求権）
- －人がどう生き、どう老いていくか、人と人とうがどう関わっていくか
- －家庭や地域の中で、人が育っていく中で、自然に伝えられてきた
- －意図的に、計画的に伝えなければいけない時代

原田正樹「共に生きるということ共に学びあうこと」（2009）

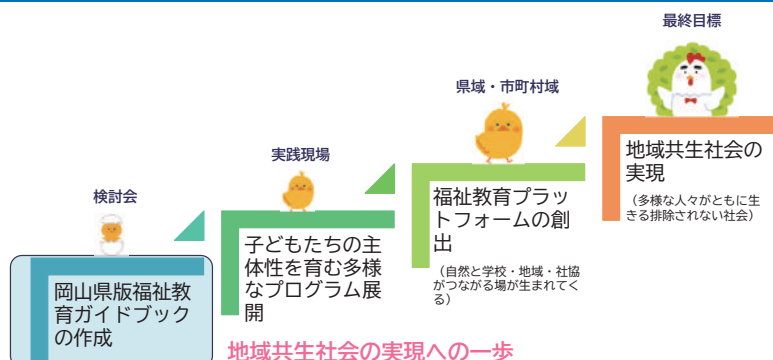
例えば、「病気をしない」や、「毎日美味しいご飯が食べられる」等の幸せもありますが、「誰かと一緒にいる」「地域とつながっている」と感じることも幸せのひとつではないでしょうか？今、日本では、子どもたちのいじめや自殺は増え、寂しいと感じる子どもたちも先進国の中では多い状況です。

これまで家庭や地域で、自然と培われてきた「福祉」や「人々のつながり」を、これからは福祉教育を通じて意図的に、学校教育等で伝えていかなければならない時代となっています。

福祉教育ガイドブック作成検討会の設置目的

本会では今年度、子どもたちの主体性を育む福祉教育をより着実に推進すべく、福祉教育担当者の資質向上ならびに、多様な関係者との連携・協働による福祉教育プログラムの実践に有用なツール開発・普及のために本検討会を立ち上げました。

岡山県版福祉教育ガイドブック作成検討会の目的



①第1回検討会(6月17日)



②第2回検討会(8月26日)



ただし、ガイドブック作成はあくまで手段であり、最終的には福祉と教育関係者がより綿密に連携することで、市町村域での場（プラットフォーム）が創られ、地域共生社会の実現につなげたいと考えています。本検討会は、年5回開催し、委員のみなさんをはじめ、毎回ゲストをお招きしたり、市町村社協や大学生等から、たくさんアイデアやご意見をいただいたりしながら取り組んでいます。

教育委員会や学校と社協の連携・協働について

中井委員長のコメント

連携・協働のはじまりは、お互いの目的のすりあわせから始まります。福祉と教育は専門性が異なりますが、検討会のような、今の教育現場や、社協のスタンスを理解できる場は非常に大切だと思います。

市町村社協のみなさんには、教育委員会や学校へのアプローチにぜひチャレンジしていただきたいです。本ガイドブックがその一助となるよう尽力します。

③第3回検討会(10月30日)



共生社会を実現していくためには、住民一人ひとりに「共に生きる」という意識が共有されることが大切だと思います。この意識醸成のベースとなるのは、教育の現場ではないでしょうか？

現在、教育委員会では、地域全体で児童生徒を育てる基盤づくりにつながるよう開かれた学校を目指して、コミュニティ・スクールの取組を進めています。福祉教育でいうと、地



森年雅子副委員長
(真庭市教育委員会生涯学習課
郷育魅力化コーディネーター)

森年副委員長のコメント

域との協働のもと、アイマスクや車いす体験などを始め、様々な福祉理解の機会が設けられています。

一方で、今日の福祉教育には自らの生活に目を向け、身近な福祉課題に着目し、その解決に向けた「支えあい」の福祉学習に転換する必要があるようにも感じます。

そのためには、地域の教育力の向上を図るとともに、教育現場でのさらなる福祉教育の充実が必要です。

地区社協のように、具体的な地域の福祉課題の解決に向けて活動する人や団体と教育委員会・教育現場が協働して、児童生徒が自らの生活を振り返る学習機会と実践につながる道標になるのではと期待しています。

最後に読者のみなさまへ

子どもたちは未来の地域の担い手であり、福祉教育を推進していくためには、地区社協や民生委員、児童委員等のみなさん、社会福祉法人のみなさんのお力が不可欠です。ぜひ本取組や子どもたちに関心をもっていただければ幸いです。

ガイドブックは令和7年度に完成・配布予定です。

◆お問い合わせ先

地域福祉部 地域支援班
☎086・226・2835



(取材者) 美作大学生生活科学部
社会福祉学科3年(左から)
岩本翔輝さん、今井琉斗さん
岩本虎亜さん

今年度は県内で福祉を学ぶ現役大学生が取材・レポートします!

県内地域福祉活動の取組レポート

NPO 法人 津山・きびの会

2005年設立・2009年NPO法人化した津山・きびの会は、「居場所」を中心としてあらゆる人々が協力し、誰もが支え合いながら、生き生きと生活できる社会の実現を目指しています!



活動内容について

社会から孤立しないための活動のひとつに、「ピアサポート」があります。ひきこもり経験者やその家族、同じ悩みを抱えている人同士、お互いを支え合う支援活動です。近年は若者たちと一緒に、ゲームや食事づくりを通して、「楽しむ時間」を取り入れています。

また、それぞれの思いを語り合う交流の場、「ぴあカフェ」も開催

文部科学省の令和4年度、不登校やいじめなどの実態調査によると、小中学校における不登校児童生徒数は、約30万人と過去最多を記録。そのうち、約11万4千人は、学校内外の機関等で相談・指導を受けておらず、地域社会との「つながりの不足」が明らかになっています。また、内閣府の同年度調査によると、「15歳から64歳」の146万人、「50人に1人」がひきこもり状態にあるとされています。

今号では、不登校・ひきこもりの当事者とその家族、地域住民が交流できる居場所づくりや自立支援を行う「津山・きびの会」、理事長の川島和子さんに、活動する中での思いを伺いました。

しています。当会には、ピアサポーター養成研修修了者が複数名おり、ひきこもりの子どもを持つ親や、誰かに話を聴いてもらいたいと感じておられる方々への相談活動も行っています。



川島和子理事長と
川島炫三前理事長

活動の良いところ

20年ほど前、私の息子が突然ひきこもり状態になったことが家族会をつくるきっかけになりました。家族会では、同じような境遇の人達が集まり相談会が開かれています。それぞれが実体験を語り合い、家族自身が行っている対処法や工夫などを共有します。私も実際に思いを語り合う中で、子どものことを俯瞰して見ることができるようになり、自分の生き方や考え方にも新たな視点が見えてきました。かけがえのない自分自身を成長させる家族会の素晴らしさを感じて

ひきこもり相談者からの感想

います。

相談は、ご家族から始まることが多いです。そこを入り口に、お母さんやお父さんの変化がひきこもっていたお子さんに変化につながり、「自分も参加してみたい」との思いが生まれ足を運んでくれます。「子どもが居場所に出向くきっかけづくりができて助かった」という声が多く寄せられます。

活動を通じた地域社会の変化

実は、大きく変わっていないというのが私の印象です。

20年前、「ひきこもり」は社会問題としてクローズアップされました。その後、「ひきこもり」に関する講座の開催、映画会やライブを通じた広報活動を行ってきました。しかし、これらの活動が十分に根付くより早いスピードで、新たな課題が次々と起こる時代になっています。ただ、そうした中にもあっても、これまで学んできたことや続けてきた活動は、現在、ひき

こもりに関する問題解決の「基礎」
になっていると強く感じます。

今後の展望と地域課題

楽しく活動が続けながら、会員同士の理解をさらに深めていきたいです。そのためには、感謝の気持ちや忘れずに、様々な人と「つながっていく」。特に、学生や若者の力を借りて、活気ある活動を続けていくことが重要だと思っています。

そして、時には会員同士で意見の食い違いがありますが、お互いを尊重し合う姿勢を大切にしています。ここでの活動は、安心していろんな人と話ができて、コミュニケーションの練習ができる場所です。その中で様々な価値観や視点、考え方を学び、お互いの気持ちを大切にしながら、「成長していける場」としていききたいです。

国のひきこもり支援は、変化してきています。医療モデル（本人の問題）から社会モデル（社会の問題）に転換されてきました。幅広い支援が期待できます。

最後に、地域社会における今後の課題として、相談窓口の明確化や相談員の充実、相談員のスキルアップが重要だと感じます。

取材を終えて

川島さんの経験をお聴きし、ひきこもりの家族が置かれている現状を知り、きびの会の役割が理解できました。これから活動に参加しながら、学生としてできることを探って行きたいと思います。（今井琉斗）

「学生、若者の力を借りて活気のある活動をしていきたい」と川島さんの言葉がありました。まずは私たちが積極的に活動へ参加し、ひきこもり経験者の声を聴く機会を持ちたいと思いました。（岩本虎亜）

ひきこもり問題が単なる個人の問題ではなく、社会全体で取り組むべき課題であることを学びました。ひきこもりの問題だけでなく、孤立や偏見、制度の狭間の課題を抱えている人へのかかわりについても、考えていきたいと思っています。（岩本翔輝）

◆お問い合わせ先

NPO法人 津山・きびの会

<https://npo-tkibi.candypop.jp>

居場所トトロの家（津山市小桁137-2）

TEL・FAX：0868-231-0085

開設時間 毎週末曜日・土曜日

13時30分～16時 祝日、年末年始は休業

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償！！

令和6年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
こちらから
(ふくしの保険ホームページ)



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

保険金額・年間保険料（1名あたり）

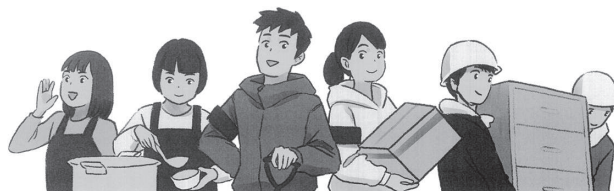
団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術	入院中の手術	65,000円	
	保険金	外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
賠償責任の補償	特定感染症		補償開始日から補償(*)	
	地震・噴火・津波による死傷		×	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料			350円	500円

*特定感染症についても10日間の免責期間がなく、補償開始日から補償対象となります。
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03(3349)5137

受付時間: 平日の9:00～17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03(3581)4667

受付時間: 平日の9:30～17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

コロナ禍で顕在化した 支援を要する世帯に対する 相談支援体制の強化



新型コロナウイルス特例貸付の借受世帯の多くは、複合的な生活課題を抱えていることから、本会では、市町村社協と連携して、相談支援体制の強化に向けた取組を実施しています。

借受世帯の状況把握

市町村社協で取り組んでいる相談支援体制強化推進事業では、①まずは様々な方法で、借受世帯の状況把握を行い、②世帯ごとの支援の必要性を選別、③支援が必要な世帯には生活課題の分析を行う中で、④支援調整や相談窓口の周知等の生活（相談）支援を継続的に行っています。現在、すべての市町村社協で、アンケート調査の郵送や訪問、架電等による状況把握に取り組んでおり、約99%の借受世帯に対し、状況把握のためのアプローチを実施しています。

世帯状況の分類

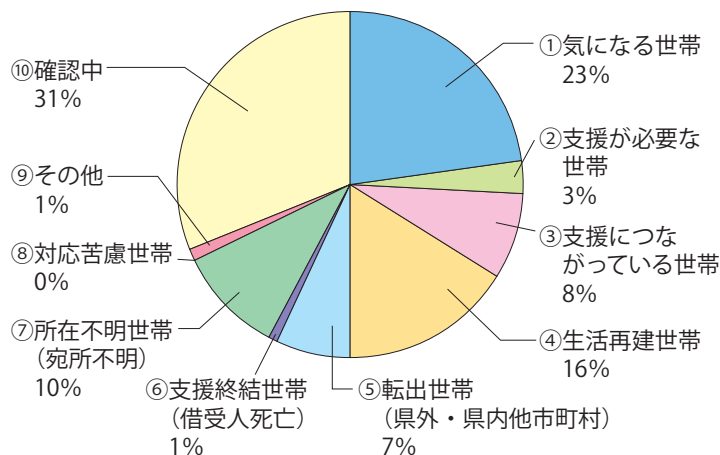
把握できた借受世帯の状況を本会で提示した10の区分に分類することで、岡山県全体の借受世帯の状況を見る化（可視化）し、支援が必要な世帯については、生活課題の分析と支援調整に向けた検討を進めています。

特に、①気になる世帯、②支援が必要な世帯等を中心に、継続的に生活（相談）支援に関わるとともに、専門的な課題について、市町村域における関係機関・団体とのネット

市町村社協相談支援体制強化推進事業 取組内容

（１）状況把握をもとに、借受世帯の置かれた状況を10区分に分類

- ①気になる世帯
- ②支援が必要な世帯
- ③支援につながっている世帯
- ④生活再建世帯
- ⑤転出世帯
(県外・県内他市町村)
- ⑥支援終結世帯
(借受人死亡)
- ⑦所在不明世帯
(宛所不明)
- ⑧対応苦慮世帯
- ⑨その他
- ⑩確認中



（２）生活課題の分析と支援調整

①気になる世帯、②支援が必要な世帯等を中心に、継続的に生活（相談）支援に関わるとともに、市町村域における関係機関・団体とのネットワークを活用した支援調整やネットワーク構築を行っていくことを働きかける。

ワークを活用した支援調整を行っていくことを提案しています。各市町村社協においては、分類に応じて支援の優先度を設定、訪問や

架電を強化したり、生活困窮者自立支援事業実施団体や行政と定期的な会議を開催するなど、地域実情に応じた支援が展開されつつあります。

令和6年度情報交換会実施内容（開催状況と今後の予定）

- 第1回 5月／説明「令和6年度の取組方針の状況」
- 第2回 6月／共有「データベースや基礎資料の使い方」
- 第3回 8月／講義「個別アプローチのきほんのき」
- 第4回 10月／共有「多機関協働に向けた働きかけ」
- 第5回 12月／共有「R6年度のふりかえりとR7年度に向けて」
- 第6回 2月／講義「初回スクリーニング後の対応」

本会における県域支援

本会では、市町村社協が本事業に積極的に取り組んでいただけるよう、支援方針の共有や情報交換、相談対応や技術等を学ぶ情報交換会を定期的に開催しています。



10月22日（火）開催 情報交換会「グループによる意見交換の場は重要です」

8月に開催した情報交換会では、市町村社協の多くが個別アプローチに課題を感じていたことから、川崎医療福祉大学の中尾竜二氏を講師に「個別アプローチのきほんのき」をテーマとした講義・演習を開催、10月には、市町村社協だけでは対応が難しい専門的な課題について、先行取組事例の共有や、多機関連携に向けた現状・課題の整理、今後の支援方針を確認しました。



●コロナ特例貸付状況（岡山県／概数）

貸付世帯数	貸付債権数	貸付額（円）
25,285	63,641	25,335,410,000

●償還猶予・償還免除・毎月償還状況（R5.1～R6.9月）

償還猶予	対象債権	決定債権	決定率
債権数	51,973	2,362	4.5%
償還免除	対象債権	決定債権	決定率
債権数	63,641	24,254	38.1%
毎月償還	請求金額	償還金額	償還率
金額	2,767,820,000	881,132,000	31.8%

やういじ

借受世帯の抱えている課題の多くはコロナによって顕在化したものであり、すぐには解決につながらないことも多いのが実情です。市町村社協には、支援が途切れて再び潜在化しないよう、細く長く、継続的につながり続けることがこれからの求められています。

ハラスメント対策、今の体制で本当に大丈夫ですか？



管理職・相談窓口担当者研修、体制の整備、外部相談窓口
トータルでお引き受けします

Ai あい社会保険労務士法人

☎0863-81-5634



特定社会保険労務士 佐藤起世子
〒706-0024 玉野市御崎 2-3-13

あい社労士法人

検索

<http://aisr.or.jp/> メルマガ募集中！
メルマガはHPからお申し込みください。

令和6年度 岡山県総合社会福祉大会 開催

去る10月11日（金）、岡山芸術創造劇場ハレノワにて、令和6年度岡山県総合社会福祉大会が開催され、約500名が参加しました。

当日は、地域福祉活動の実践、高齢者や障がいのある方、子どもへの支援など多年にわたり尽力された方々に対し、岡山県や岡山県社協をはじめとする福祉団体より感謝の意を表するため、表彰式典が行われました。

式典では、受賞者総勢444名・41団体のうち、各表彰の受賞代表者に対し、表彰状と記念品が授与されました。



足羽憲治県社協会長より県社協会長表彰を授与



村上信夫さんによる特別講演

また、元NHKエグゼクティブアナウンサーの村上信夫さんをお迎えし、『嬉しいことが自分が変わる』と題して、特別講演をいただきました。

「おかげさま・いただきます・ありがとう」の3つのことをキーワードに、会場と掛け合いをしながらお話くださいました。使うことが、耳に入ることばで人は変わります。「嬉しいことばの種まき」をしましよつと締めくくられました。

なお、岡山県社協会長表彰並びに感謝の受賞者は、下記のとおりです。受賞者の皆様、誠におめでとございました。

令和6年度 岡山県社会福祉協議会会長表彰・感謝

●民生委員・児童委員功労者

小西 知子	萩原 恵利子	花田 松子
横山 幸子	仁科 裕子	神崎 康子
石井 多鶴子	藤井 義久	下田 泰久
森定 祐子	藤田 千津子	西田 勝江
本田 恵美子	沖本 俊子	

●社会福祉施設功労者

野崎 真紀	赤堀 初江	内田 育子
三宅 めぐみ	上山 恵子	伊東 晴子
間野 敏志	安藤 弘子	太田 知恵子
三宅 祐子	中田 妙子	仁木 則子
馬場 友子	越尾 京子	逸見 斉
小林 恭子	出口 尚美	高田 美洋
田辺 隆広	能勢 あけみ	高田 麻里子
樺山 貴美江	山崎 千幸	中島 健一
荻野 佳子	濱田 義子	西村 由起子
山田 浩子	若林 一二美	三村 恭一
内田 陽子	絹田 佐百合	竹竝 百合枝
難波 勝義	松本 博行	土岩 真寿江
原田 雅也	万殿 五月	
高木 久子	村田 幸枝	
清田 恭子	田口 早苗	

●社協・団体功労者

藤原 啓祐	大世戸 美樹	江田 睦雄
山崎 和美	板崎 優香	上田 亮子
佐賀 雅宏	後内 久雄	奥山 勝之

●優良社協・団体

富山地区社会福祉協議会

●社会福祉協助者（感謝）

手話サークルにしあち	岩崎 淑子
菜の花サロン	湊 美恵子
倉敷ほほえみライオンズクラブ	中磯 清子
原田 毅	片田ふれあいサロン
前田 秀子	喜楽亭
澤田 英美子	若林いきいきサロン
ふきのとう	水車の里いきいきサロン
あいあい会	毎戸いきいきサロン
立川 涼子	宇内元気ボタルの会
土山 弘子	江本いきいきサロン
藤原 三千代	

（敬称略・順不同）

「つながることがチカラになる情報交換会」を開催しました
 ～困りごと支援に向けた企業・団体と社協の連携・協働～

本会と寄贈・寄付等を通じた関わりのある企業・団体と、支援先の一つである市町村社会福祉協議会（以下、市町村社協）との情報交換会を、去る9月18日に開催しました。

株式会社セブン・イレブン・ジャパンさま、岡山生活協同組合おやかまコープさま、生命保険協岡山県協会さまと、10市町村協に参加いただき、誰にでも起こり得る孤独・社会的孤立とつながりづくりについて、ともに考えました。

基調講義は、川崎医療福祉大学医療福祉学部 講師直島克樹氏が「孤独・孤立の現状とこれからの社会的つながりの構築について」と題して行い、社会的背景や孤立が及ぼす影響から、つながりの意義と社会的インフラとしての居場所や企業と居場所の連携事例について学びました。

その後、『つながり』をテーマに、具体的な支援や関わりのイメージを共有するグループワークを行いました。

企業・団体様からは「社協が向き合う課題やそれらを解決しよう」と前向きに取り組まれていること

を知ることができた」、社協からは「社協とは違う視点での見方を聞くことができた」「地域のためにという思いが共通であることが分かった」等の声をいただきました。
 これからも、「つながり・支え合い」が実感できる地域づくりに向けて、様々な分野と話し合い、相互に交流を深めながら、つながりの輪を広げる機会をつくっていきたいと思います。

ひとりぼっちをつくらない。地域でつながるために

企業・団体が持つ強み・可能性

× 社協の機能・活動

具体的な支援や関わりのイメージを共有しよう



お問い合わせ先
 地域福祉部 地域支援班
 086-1226-12835

社会福祉学科 通信課程

一般養成課程(1年6カ月)

教育訓練給付金制度対象講座

▶ スクーリングはJR福山駅から徒歩8分の穴吹カレッジ東町校舎で行います。

進学説明会 12月 8日(日) 1月25日(土) 10:00
 2月16日(日) 3月 1日(土) ~12:00

場所は東町校舎で実施します。学習内容や実習等について詳しく説明し、個別相談を行います。事前予約は不要です。左記以外の日程については、Webサイトをご確認ください。進学説明会の日程以外でも随時、ご相談に応じています。



学校法人 穴吹学園

穴吹国際みらい専門学校

2025年度生 願書受付中



TEL:084-931-6857

〒720-0052 広島県福山市東町2-3-6

詳しくはQRコードからWebサイトをご覧ください

2025年度生願書受付中! (最終締切2025年3月21日◎)

社会福祉学科 通信課程

社会福祉士養成
 通信課程

西日本で唯一の
 一般養成課程(1年コース)
 ※公益財団法人社会福祉振興・試験センター調べ

一般養成課程(1年6ヶ月コース)

一般養成課程(1年コース)

短期養成課程(9ヶ月コース)

精神保健福祉学科 通信課程

精神保健福祉士養成
 通信課程

一般養成課程(1年7ヶ月コース)

短期養成課程(9ヶ月コース)



教育訓練給付制度
 対象講座



詳しくは
 QRコードから
 HPをごらん
 ください。

好きを極めてプロになる



学校法人 穴吹学園

専攻 穴吹パティシエ福祉カレッジ

〒760-0021 香川県高松市西の丸町14-10

TEL.087-873-2455

『フクシラボおかやま
2024』開催しました！

岡山県福祉人材センターでは、小・中学生が福祉・介護の仕事への関心を高め、理解を深めることを目的に、「フクシラボおかやま」を実施しています。今年度は、小学生対象の「キッズワーカー」と中学生対象の「キッズレポーター」と対象を分けてイベントを開催しました。

【キッズワーカー（7月27日）】

当日、105名の小学生が参加し、「福祉のお仕事」を体験してもらいました。電動車いす・IT技術体験（介護職）、聴診器体験（看護師）、トロミ剤を使った飲み物の試飲（栄養士）、それぞれ特色のある体験をしてもらいました。また、体験後には、同時開催の



「Okayama福祉・介護フェス」イベント内で使えるお買い物券をお配りし、障がい者の方が作られた商品を販売するセルフセンターのお店等で、自由にお買い物を楽しんでもらいました。

参加された9割以上の方に「楽しかった」「また来たい」とアンケートにご回答いただきました。「協力」岡山県老人福祉施設協議会、岡山県看護協会

【キッズレポーター（8月8、9日）】

合計約20名の小中学生と岡山・倉敷市内の施設へ伺い、福祉のお仕事体験や施設の魅力を感じる催し等を行いました！体験では、利用者さんと障がい者スポーツやBBQ等を楽しむ時間もあり、参加者にとって貴重な時間となりました。最後にはグループワークを行い、学んだことを発表してもらいました。参加された方からは、「イメージよりも明るく楽しい場所だった」「福祉の凄さや大切さを知ることができた」等ご意見をいただきました。

「協力」社会福祉法人旭川荘（岡山）、社会福祉法人四ツ葉会（倉敷）※詳細は岡山県福祉人材センターのホームページをご覧ください。
(<https://jinzai.fukushiokayama.or.jp/event/tour/>)

おかやま★フクシ・カイゴ職場
「すまいる宣言」認証制度
新たに1法人登録されました

おかやまフクシ・カイゴ職場「すまいる宣言」制度は、自ら人材育成や就業環境の改善など、働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組む福祉・介護事業所を登録・公表するものです。

令和6年度前期1法人【社会福祉法人アミカル（倉敷市）】が新たに5つ星宣言事業所として登録認証されました。

平成31年度の制度開始からこれまで、39法人540事業所が、登録認証されています。

法人として、職員が安心して働くことができる事業所としてPRを行い、新たな人材の確保や職員の定着につなげてもらいたいと考えています。

認証制度、新規申請に関すること等は、岡山県福祉人材センターへお問い合わせください。

☎086-1226-3507



★福祉介護魅力発信！フアジアーノ岡山選手起用PR動画は公式YouTubeにて公開中です！

写真集から名刺まで！印刷物のことならなんでもお気軽にご相談ください。



岡山市北区玉柏390 TEL 086-229-3366 www.nakano-collo.co.jp



お見積り、事故のご相談、すべて無料！
お気軽にご連絡下さい。



岡山県支部
〒700-0827 岡山市北区西古松 237-126 松本ビル 3F
TEL086-246-3355 FAX086-246-3375

【本部】福岡市博多区東比恵 2-15-25
TEL：092-441-5901

NJ730.2103.0213.999999

赤い羽根共同募金



岡山県共同募金会

10月1日から共同募金運動が始まっています

10月1日、岡山駅東西連絡通路にて、社会福祉協議会や福祉施設・団体などから数多くの募金ボランティアの参加のもと、共同募金運動オープニングセレモニーを開催しました。上坊副知事・大森岡山市長から励ましのお言葉をいただいた後、駅前で街頭募金活動を行い、共同募金への協力を呼びかけました。

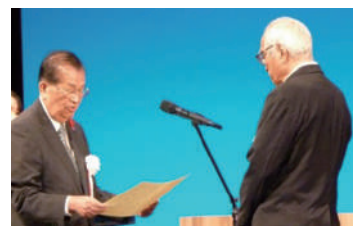
お寄せいただいた募金は地域福祉のための民間活動を支える貴重な財源となります。

12月末までの運動期間中、地域や職場、学校で、あるいは個人として共同募金にご協力をお願いします。



令和6年度岡山県共同募金会会長表彰を行いました

10月11日に芸術創造劇場ハレノワにて岡山県総合社会福祉大会が開催され、共同募金運動奉仕功労者、奉仕団体、従事功労者に対し、岡山県共同募金会会長表彰を行いました。共同募金運動を支えてくださっている全ての皆様に深く感謝申し上げます。(奉仕功労者34名、奉仕団体8団体、従事功労者20名)



企業の社会貢献活動とのコラボ

昨年度からのぼり旗の寄贈・掲出と店舗への募金箱の設置により共同募金へご協力いただいているほっかほっか亭岡山・福山店長様とのコラボ第2弾として、共同募金のマスコットキャラクター「愛ちゃん・希望くん」をはじめ、市町村共同募金委員会のキャラクターをデザインした缶バッジを共同作製しました。

ほっかほっか亭ではこの缶バッジを活用したカプセルトイを順次店舗に設置し、収益金の一部を本会にご寄付くださる計画です。



「赤い羽根ボランティア団体・NPO 活動助成事業」助成先募集

県内で地域福祉課題の解決のため活動するボランティア団体やNPO法人等非営利団体の活動を助成します。

“じぶんの町を良くする”ために、日々活動に取り組まれている皆様からの積極的な応募をお待ちしています。応募は令和6年12月16日(月)まで。この事業の他にも、「こども食堂」でのイベント等への助成も募集中です。詳細は本会ホームページをご覧ください。



(岡山県共同募金会 HP)

「NHK 歳末たすけあい」について(予告)

今年も12月1日から25日まで、NHKと共同募金会が共同で「NHK 歳末たすけあい」を実施し、NHK岡山放送局や郵便局、中国銀行などで募金の受付を行います。

お寄せいただいた募金は、重度の身体障がいのある方や難病の方々を支える福祉関係団体が歳末に行う活動等の支援や、障がいのある方が働く事業所の環境整備等に活かされます。皆様のご協力をお願いいたします。

vol. 65
「ふくし」の
仕事人たち

しげざね介護事業コンサル

代表 重實 剛さん

～挑戦！豊富な知識・経験を武器に、
現場の声に寄り添い、
頼られる存在へ。～



ふくしの仕事に就いたきつかけを教えてください

高校や大学は福祉とは別の分野の学校でしたが、昔から世話好きな性格ではありました。大学を中退し、自分のやりたいことを探している時に、社会福祉協議会が実施している夏のボランティア体験の案内を目にし、応募しました。デイサービスでの体験でしたが、とても楽しく、この仕事はおもしろいと思い、福祉の専門学校へ入学しました。

それから福祉の世界へ入り、介護職員や施設長等として勤めました。施設長の時は、職員が利用者のために頑張っている、その職員をバックアップすることを心がけていました。

そして、20年経ったときに、自分の力を試すためにも独立しようと思い立ち、令和5年度から今の仕事を始めました。

現在の仕事内容について教えてください

職員研修の講師やBCP策定のアドバイザー等、色々な声に応じて仕事をしています。

実際のコンサルタントとしては、ある社会福祉法人の理事長からの

相談を受け、5カ月間定期的に訪問し、新しくリーダーになった職員の育成をお手伝いしました。部下となる全職員と面談を行い、新しい体制への不安や気持ちを受け止め、リーダーとの橋渡しも行いました。そうして組織内で自立してうまく回っていくまで寄り添って支えました。

組織のどのような場面でも人との関係が大事だと思っています。組織みんな同じ方向に進むには、日頃のコミュニケーションがあつてこそだと思っています。

今後について

独立していることでのリスクはありますが、自身のこれまでの経験や得意分野を活かして自由に働けるのはとても楽しいです。

様々な本や出会う人からの学びや気づきにより自身を高め、岡山県の福祉・介護の現場をよりよくしていきたいです。また、何かあった際に頼られる存在になりたいと思っています。

【お問い合わせ先】
しげざね介護事業コンサル
☎0901713317408



機関紙「岡山県社会福祉」へのご意見・ご感想をお寄せください！

ご意見・ご感想をいただいた方の中から3名様にももるんじゃーグッズをプレゼントします。

機関紙へのご意見・ご感想、住所、氏名、年齢をご記入の上、下記までお送りください。

■ 郵 送：〒700-0807 岡山市北区南方2丁目13-1 きらめきプラザ3階

岡山県社会福祉協議会 広報班

■ FAX：086-227-3566 まで

なお、当選の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

